

滋賀県における地域モビリティの課題 と取組について

2019年 3月 20日

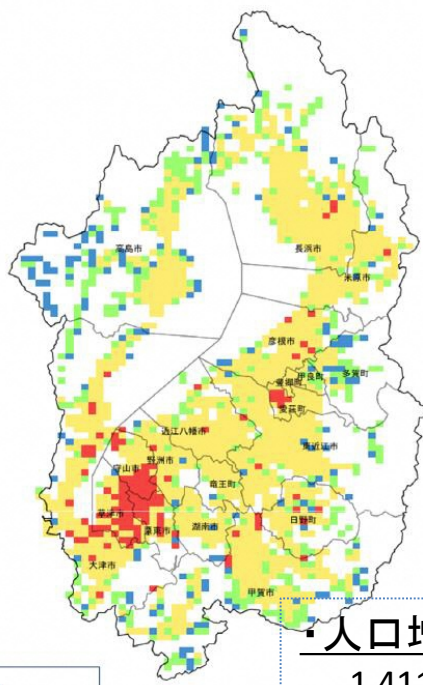
滋賀県土木交通部交通戦略課

- ① 滋賀県の地域モビリティの現状と課題
- ② 公共交通を取り巻く最近の状況・取組
M a a S
オープンデータ化
自動運転
- ③ 地域公共交通に係る検討の視点

人口減少・高齢化局面に突入した滋賀県の状況

- 2014年(H26)に**滋賀県においても人口減少局面に突入**。
一部地域では人口増加を見込む所もある。
- **75歳以上人口比率は今後県内全域で増加し、年少人口は県全体で減少の見通し**。

■人口の動向 (2010年⇒2050年の増減割合)

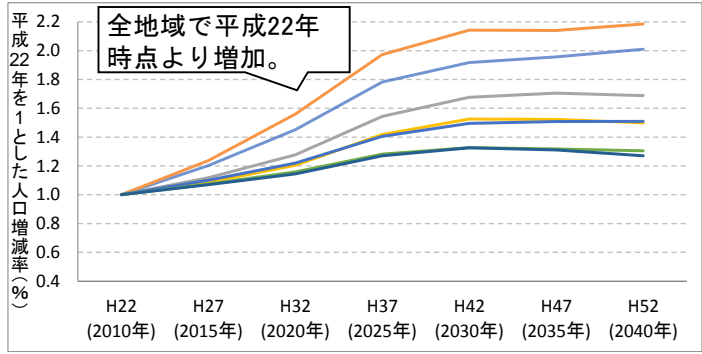


■人口増減率

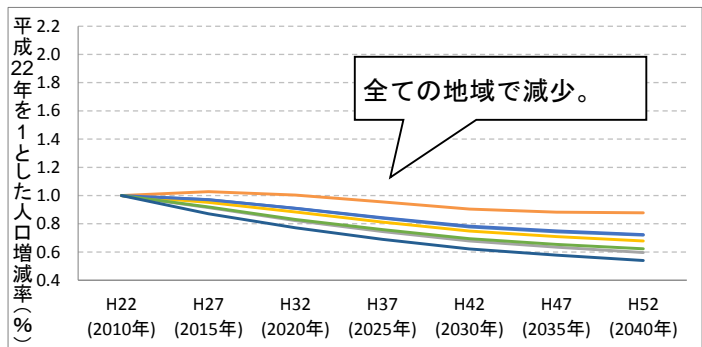
出典:国土のグランドデザイン2050」資料

- ・人口増加率 $\Delta 13\%$
1,411千人⇒1,227千人
- ・7%の地点で増加
- ・65%の地点で50%未満の減少
- ・28%の地域で50%以上減少

①75歳以上人口



②20~14歳人口



- 大津地域 (Blue)
- 南部地域 (Orange)
- 甲賀地域 (Grey)
- 東近江地域 (Yellow)
- 湖東地域 (Light Blue)
- 湖北地域 (Green)
- 高島地域 (Dark Blue)

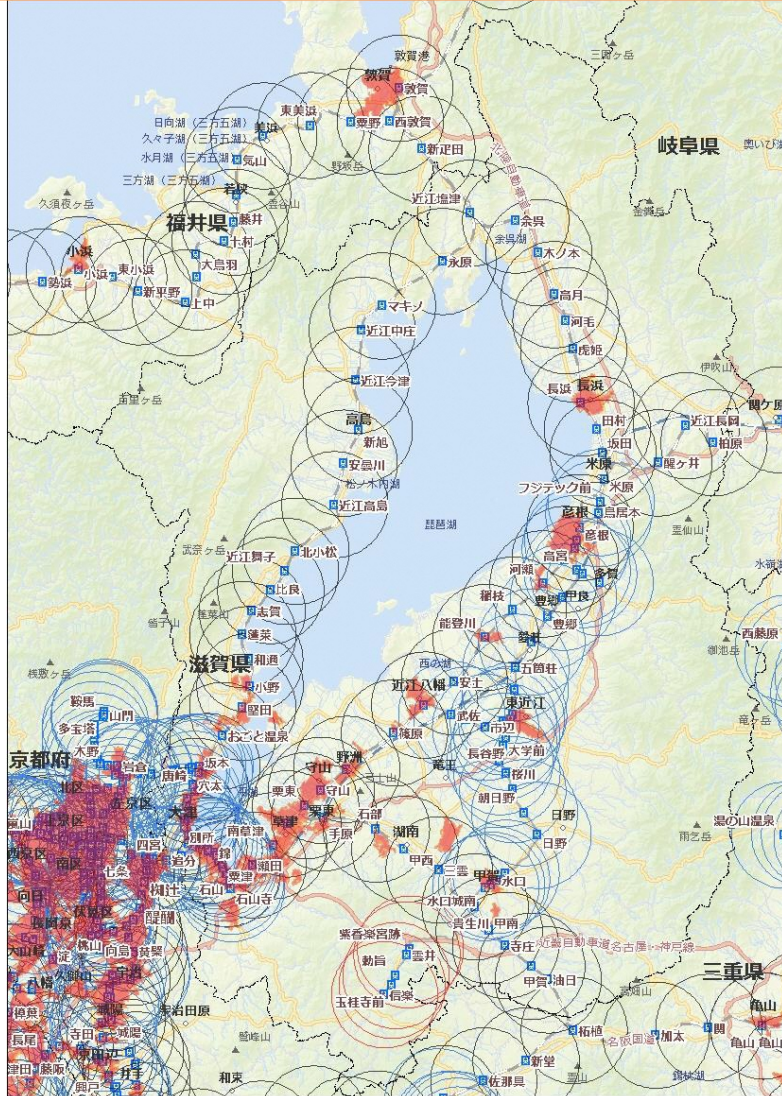
出典:「国立社会保障・人口問題研究所」の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)

滋賀県の地域モビリティの現状と課題

県内の鉄道の状況について

鉄道沿線の人口集積状況

- 鉄道駅より、半径5km圏内に人口の 95%が集積。
- 徒歩圏外(駅から1km圏外)の駅までの交通アクセスが課題。



■ = 人口集中地区(DID)

◆ 鉄道沿線人口カバー率

鉄道駅より半径5km圏内の人口集積率

H12年 92, 69% ⇒ **H22年 95.00%**

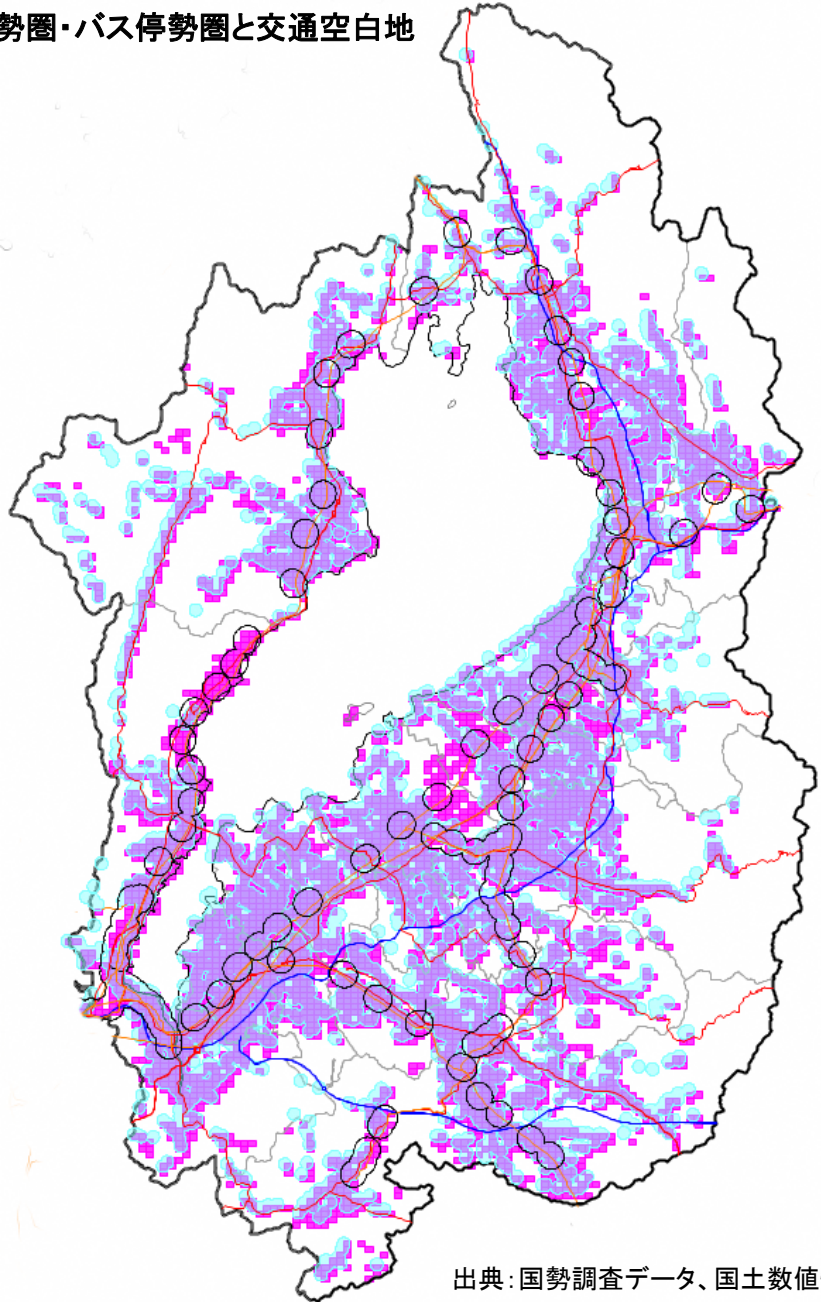
* 国勢調査

滋賀県の地域モビリティの現状と課題

鉄道沿線の人口集積状況

▼駅勢圏・バス停勢圏と交通空白地

- 鉄道駅より半径1km圏内またはバス停より半径500m圏内の人口カバー率、**91.6%**。
300m圏内であれば75.8%
- カバー圏外は、一部地域に存在しており、
デマンド交通、地域での支えあい交通を
導入するなどの対策が必要。



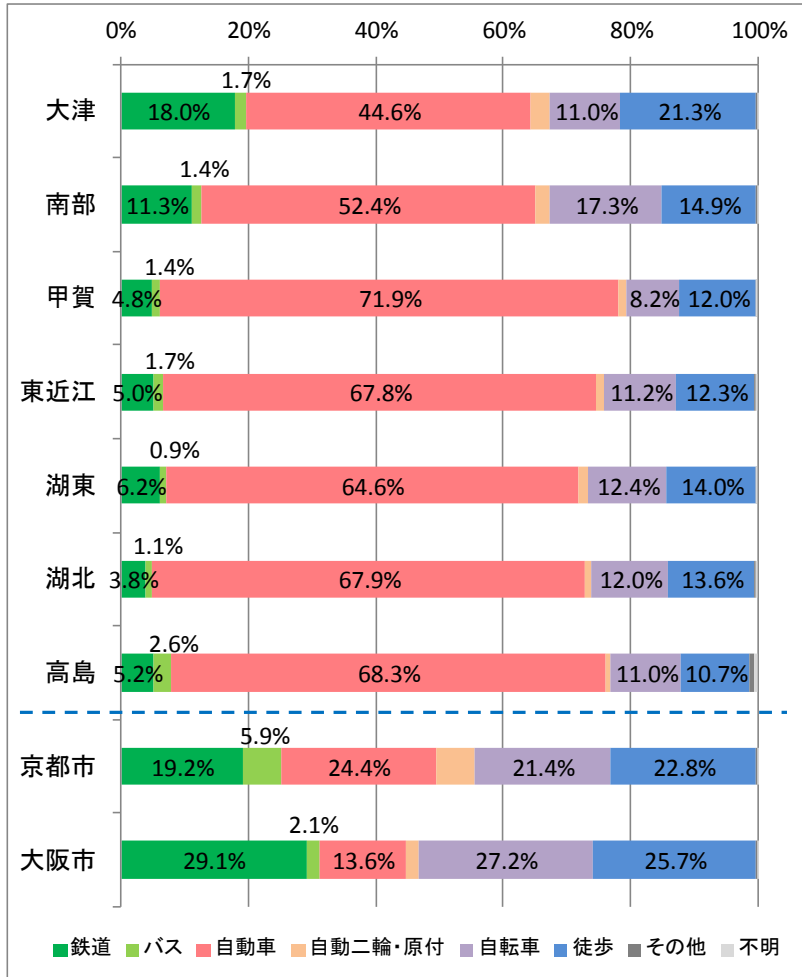
•ただし、上記の人口カバー率は**運行頻度が1日1便でも圏内**としているため、一定の運行頻度以上を対象とした場合、人口カバー率は低下する可能性がある。

- 鉄道駅から半径1km圏内
- バス停から半径500m圏内
- 居住地域

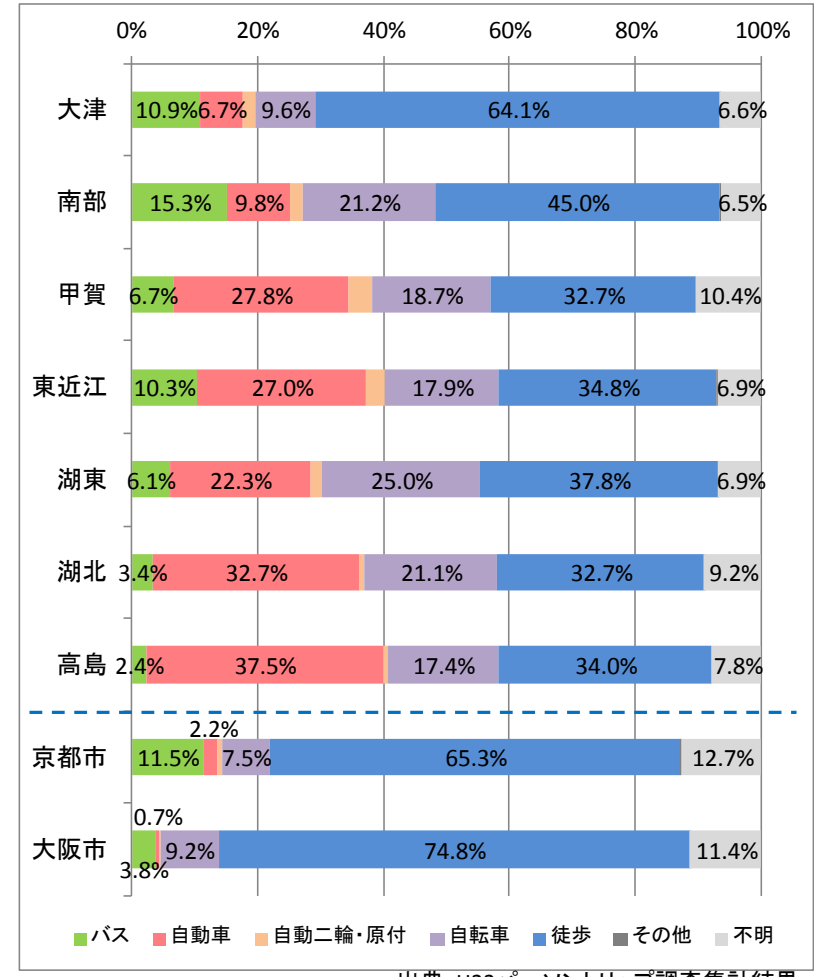
滋賀県の地域モビリティの現状と課題

- 自動車の分担率は6割を超えている。(大津、南部地域以外)
- 駅へのアクセスも公共交通機関より自動車を利用する割合が高い。

■ 地域別の代表交通手段



■ 地域別の鉄道端末交通手段 (駅までの交通手段)



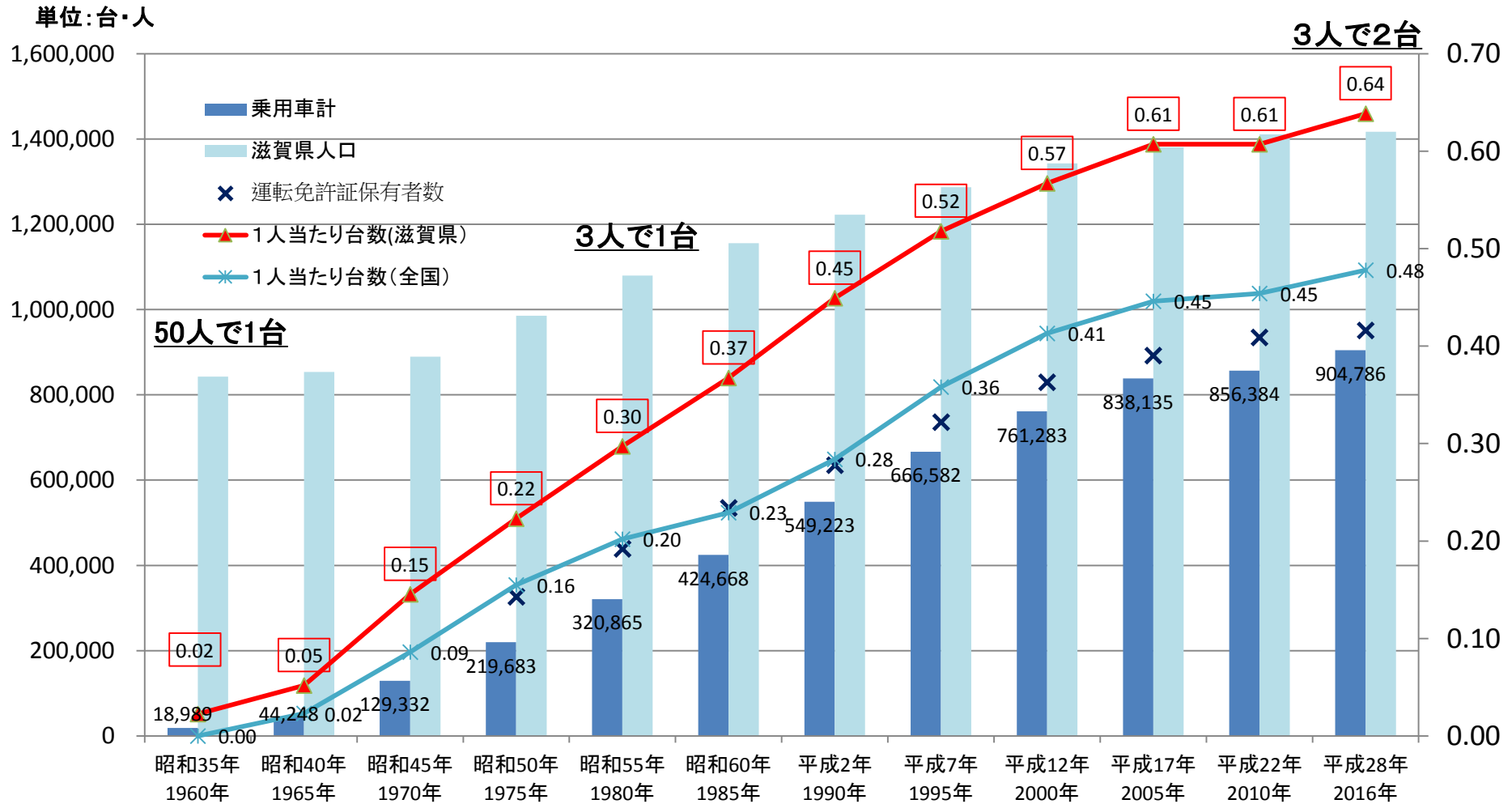
出典：H22パーソントリップ調査集計結果

滋賀県の地域モビリティの現状と課題

自動車保有台数

- 滋賀の自動車保有台数(3人に2台)は、全国(2人に1台)と比較して高い
- 免許保有者1名に対し、1台を保有しており、自動車依存がかなり高い

単位: 1人当たり台数

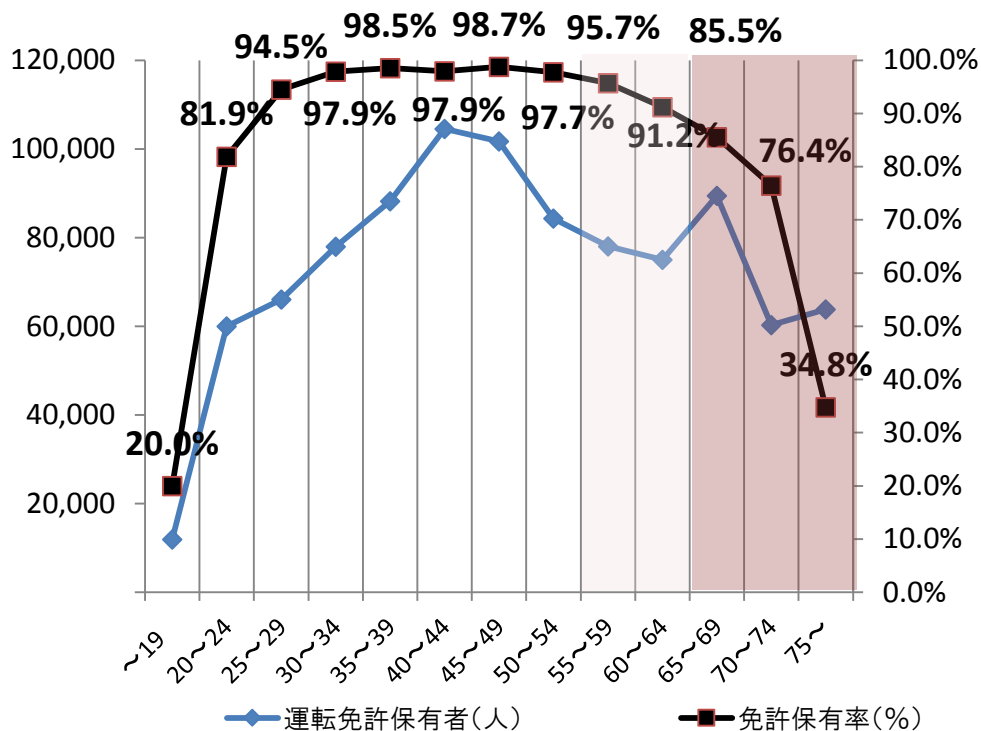


資料: 滋賀県統計書より作成(自動車保有台数は、当該年度の3月31日時点の台数)
 (人口は、国勢調査および県推計人口より 当該年度の10月1日時点の人口)

運転免許保有の状況と自主返納者の推移

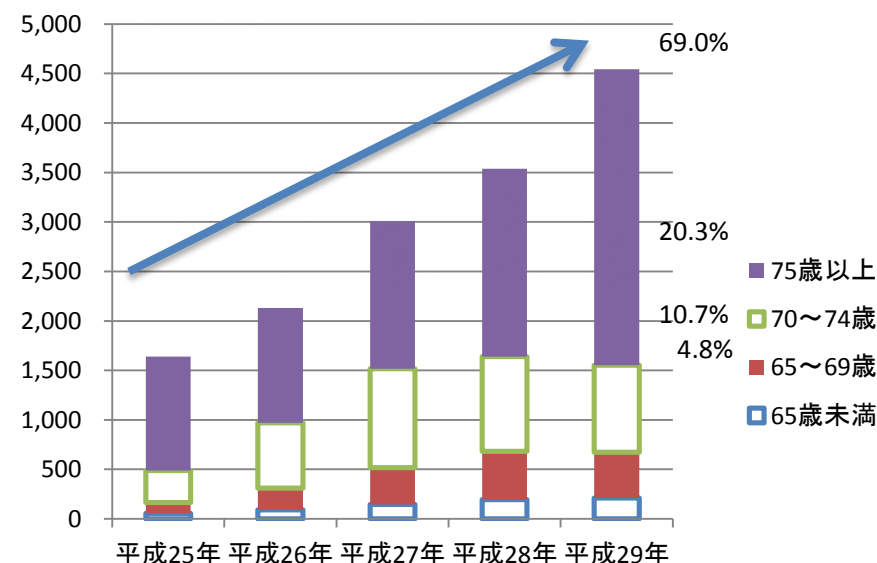
- 高齢者の免許保有率は高く、**70～74歳であっても約76%の保有率**。
- 運転免許証の自主返納の件数は増加傾向にあり、**特に75歳以上の返納者が多くなっている**。
- 免許返納者の移動手段の確保が、大きな課題となっている。

■ 年代別運転免許証保有者数・率



「滋賀の交通2017」および滋賀県警データより作成

■ 運転免許証自主返納者の推移



「滋賀の交通2017」より作成

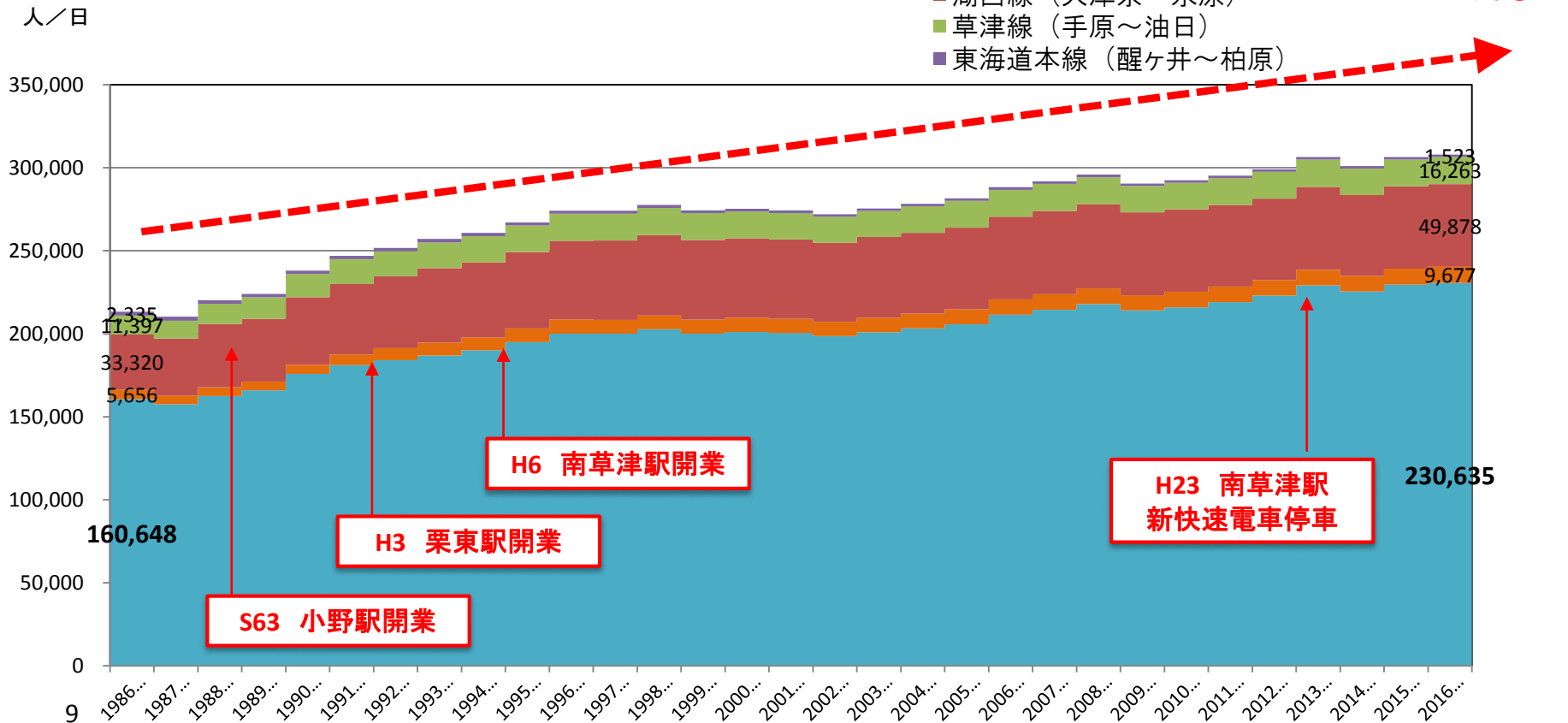
滋賀県の地域モビリティの現状と課題

鉄道の旅客人数推移(JR線)

- 1986(S61)～2016年(H28)の30年間で、滋賀県内のJR線乗車人員は約1.4倍に増加。
- 琵琶湖線の利用者が全体の約75%を占め、利用者が増加。
- 一方で、他の路線では、利用状況は横ばいと利用促進に努めている。

県内JR線旅客人数推移(1986－2016)

～1日当たり旅客人数～



滋賀県の地域モビリティの現状と課題

鉄道の旅客人数推移(私鉄線)

- 1986(S61)～2016年(H28)の30年間で、滋賀県内の私鉄乗車人員は22%の減少。
- 私鉄線については長年減少傾向であったが、2002年以降回復傾向の兆し。
- 信楽高原鉄道の上下分離や、近江鉄道の路線存続の問題が生じるなど、地方鉄道の維持継続の課題が顕在化。

人/日 県内私鉄 旅客人数推移(1986-2015) ～1日当たり旅客人数～

